

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

〔談話室〕 皇帝と天子

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金子, 修一, Kaneko, Shuichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000552

皇帝と天子

金子修一

上皇御夫妻の在位中の御努力もあって、平成から令和への天皇の交替は恙無く終了した。しかし、私の高校・大学時代には軍隊経験を持つ教師も少なくなく、昭和天皇の戦争責任を問う声もあり、戦後の昭和二四年（一九四九）生まれの私でも戦争について考える機会はしばしばあった。一方、私は漢字が好きで、そこから中国に興味を持つようになったが、日本の天皇制と比較して中国の皇帝制にも関心があった。中国古代史の大家である西嶋定生先生（以下には西嶋氏と記す）は、折りに触れて中国の皇帝制と日本の天皇制との比較に言及しており、そこで私は本郷では西嶋氏のもとで勉強するようになった。その西嶋氏が早くから注目していたのが皇帝と天子との区別の問題で、私が昨年（二〇一九年）五月一日の国史学会の東洋史例会で「天子と皇帝」と題して講演したのは、その観点を引き継いだものである。その時には疑問のままに遣り過ごした点について最近思い附くことがあったので、以下に簡単に述べてみたい。

西嶋氏は漢代の皇帝行璽・皇帝之璽・皇帝信璽、天子行璽・天子之璽・天子信璽の制度に注目し、前漢後半期から皇帝と天子との使い分けが生じた、と判断した。しかし、漢初における高祖崩御後の呂太后の専権のあと、高祖の旧臣に呼ばれて山西省の代国から長安入りした文帝は、長安の代邸で天子璽符を受けた後に天子の法駕（標準的な鹵簿）で未央宮入りし、直ちに皇帝として必要な措置を講じている。即ち、前漢初期から皇帝と天子との区別は存在したのである。一方で、官僚制度が次第に発達する中で、前漢後半期に皇帝三璽と天子三璽との区別が生じた、という見解は他の研究者にも共有され、不合理であるとも思われぬ。それでは、文帝即位時の天子璽の存在についてはどう説明すれば良いのか、私は散々頭を悩ましたが、最近思い到ったのはこの天子とは爵号ではないか、ということである。中国で

は周代の公・侯・伯・子・男の五等爵が後世の王朝の爵位の基本となったが、例外的に漢代は列侯以下公士に至る二十等爵制が行われた。一方、周代の王は天子と呼ばれていたが、秦の始皇帝が最高君主の称号を皇帝と定めると、それまでの君主の王は二十等爵の最高位である列侯上の称号となった。これが漢初からある諸侯王であり、諸侯王とは周代の諸侯に相当する王、諸侯としての王という意味の呼称である。それでは、周代に王と併称された天子はどうなったか。『漢書』高帝紀下・高祖十二年（前一九五）三月の高祖の詔に、「吾立為天子、帝有天下、十二年于今矣」とあり、ここから渡辺信一郎氏は、「高祖は、始皇帝が排除した天子号を正式に復活させた」と指摘している（『中国の歴史① 中華の成立唐代まで』岩波新書、二〇一九年、八三頁）。

後漢初期の政治思想や制度に関わる議論を纏めた書物に『白虎通』があるが、清の陳立が註釈を附けた『白虎通疏証』卷一の冒頭に「天子者爵称也」とあり、漢代には天子は爵号である、という解釈の行われていたことが判る。諸侯王即ち漢代の王は爵号であり、外臣の「漢委奴国王」印は例外的であるが、漢代の王号の璽印はいろいろと伝えられている。すると、天子が爵号であれば天子璽（璽は漢代の最高位の判子の名称）があつても不思議ではない。しかし、天子は天下に一人しかないから、「天子璽」は通常は宮中に保管されていたであろう。それが文帝即位時に持ち出され、代王である文帝が宮中入りする資格を得るために在京の高官から文帝に渡された、と想定することができないのではないか。璽符の符とは、天子璽が本物であることを証拠立てる割符の銅虎符であつたであろう。こう解釈すれば、皇帝三璽と対応する形で天子三璽が整えられる前に、天子璽という単独の璽が存在していたと説明することができよう。しかし、天子三璽が整備されると単独の天子璽は姿を消したのではなからうか。文帝の天子璽符についてはこのように考えてみたい。

以上、本欄にはややそぐわない内容かもしれないが、最近の自分の講演に関連して思いついた題材であるので、一筆認めた次第である。

（中国古代史・東アジア世界論）